

Hijicho

大阪市立大学新聞

2021年7月
第74号



みんなの思いを伝えちゃオ!
大学統合インタビュー!

P2

五代友厚をたずねて

p5

オンライン授業、どう思う?

P6

大喜利コーナー

ICHIDAIGランプリ

P12

みんなの思いを伝えチャオ! 新大学設置に関してインタビュー!



大阪公立大学 （仮称）

大阪市立大学と大阪府立大学が統合する時が迫っている。しかし、大学統合に関して読者の皆さんはどれほど知っているだろうか。我々は学生・教職員に質問を募り、それらを新大学設置準備室企画課長の柴山様、法人企画部広報課長代理の皆藤様にぶつけてみた。

——そもそもなぜ大学が統合することになったのでしょうか。

「2018年問題」と呼ばれる少子高齢化の大きな波に対応するためです。大学間競争が激しくなる中で勝ち残っていくためには、大学の規模というものが非常に重要になってきます。また、統合することにより複数領域をまたがる研究が強化されます。市大・府大それぞれ単独の領域では強いですが、これから社会的に求められている研究は分野が融合された研究であります。そういった研究をしていくために、2つの大学を統合し、先生方が交流することで、新たな分野に踏み出していきたいと考えています。

——少子高齢化・大学間競争の激化への対応と答えられました。そもそも大阪府内の国公立大学には大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪教育大学の4つしかなく、大阪の人口規模を考えると公立大学が少ないのではないのでしょうか。その上で、市大・府大を統合することで国公立大学は3つになってしまいます。非常に少なく感じますが、どうお考えでしょうか。

大阪には、国立、公立大学だけでなく私立の大学も多くあります。それを踏まえると、これから大学の数は過剰になっていくと考えています。もちろん、学力や学びたい学問・研究によって進学先も変わりますので、国公立大学の数だけの問題ではないと思います。

——統合することのメリットは何だと考えていますか。

先程の質問の答えとほとんど被ってしまいますが、やはりそれぞれの大学の特色ある学部の研究が融合することでより素晴らしい大きな研究ができるのではないかと期待しております。例えば、関西で唯一の府大の獣医学部と伝統ある市大の医学部が連携することで、人獣共通感染症の研究などの発展が期待されます。また、工学の分野では、市大は基礎研究が非常に強く、府大は応用研究が非常に強いという特徴を持っております。その2つが融合すれば一貫した研究体制の場を提供できるのではないかと思います。

——大学の研究分野のメリットは強く感じますし、広くアピールされていますが、現役学生・受験生に対するメリットがあまり感じられません。これといったメリットは何なのでしょうか。

やはり、交流の幅広さじゃないでしょうか。現時点でも、理学部や工学部などでは先生同士の交流が進んでおり、研究においても新たな発見やアプローチなどを知ることができるのは、学生さんにとっても有意義なことだと考えております。また、新大学ができるまでに両大学の学生同士でどれだけ仲良くできるか、両大学の学生同士が仲良くするといった気運がこれから高まれば、より交友関係も増えると思います。「これから大学が統合していくんだね」というような話題のきっかけもありますので、そういったメリットもあります。また、大人になってからでも、共通の話題として盛り上がるができると思います。クラブ・サークルにつきましても、当然メリットデメリットあると思いますが、運動系サークルなどでは部員数が増えることでより強くなるができると思います。もちろん、強さだけがすべてではないことも承知しております。ただ、今後どこで活動するかなどの問題は当然出てくるため、それらはこれから解決していく必要があると認識しております。

——「大学統合」が大阪維新の会の目指す「大阪都構想」の象徴、つまり政治的に利用されているのではないのでしょうか。

たしかに、当初はそういった政治的な背景はもちろんあったらと思うます。しかし、それだけでは新大学をつくるなんて大事業はなしえないですね。やはり、より研究を発展させより良い大学にしていくための統合だと考えております。



ええ大学に
したいんや〜



—なぜ、初代学長が府立大学の学長になるなど、府立大学に吸収されるような形になってしまったのでしょうか。

これもいろいろな意見がありまして、以前、法人の理事長が西澤先生(前大阪市立大学学長)になったときには、「なぜ理事長が市大側なのだ」という声もあったようです。そういった意味では、理事長が市大出身、学長が府大出身という形でバランスが取れていると思います。学長は、学長選考会議の選考に基づき理事長が任命しましたし、学長選挙で選ばれていますし、その質問は少し違った見方になっているのではないのでしょうか。

(皆藤様より補足) 公立大学法人大阪のホームページに学長予定者選考選挙の過程などが公表発表されていますので、そちらも参考にいただければと思います。また、この学長候補者選挙は他薦・推薦公募で進められたのですが、選考委員には府大・市大の関係委員の他に民間の外部委員も多数おられました。新大学を運営するにあたって、結果として市大・府大の現状をよく知っていることがアドバンテージとなり辰巳砂先生が選ばれたと私は類推するところです。適正かつ公正・公平な議論の結果、現府大の学長が新大学の学長予定者に選ばれたという認識をしていただけたらと思います。

—新大学ではキャンパスを分断することにより、サークルや一般教養科目を履修するにあたって様々な弊害が生じると予想されますが、そういったデメリットがあるにもかかわらず、森之宮に新キャンパスを建設し、基幹教育を集約する意図はなんなのでしょうか。

主に1年生、2年生が基幹教育を学ぶために森之宮に新キャンパスを作っているところではありますが、新大学ではキャンパスが分断されるからこそ、基幹教育だけは同じキャンパスで学んでほしいという意図がございます。そうしないと統合する意味はありませんし、将来的にも役立つ幅広い交友関係を築いてほしいと思います。たしかに、キャンパス間の移動の必要性はどこかのタイミングで生じますが、なるべく無いように、年次ごとにキャンパスが変わっていくようなカリキュラムになるよう設計しております。また、単位を落とした場合の再履修などをどのようにするかは検討中ですが、オンライン授業が幅広く浸透していますので、オンラインを活用するとか、一部の授業はそれぞれのキャンパスに集中して開講するなどの対応策を考えております。なるべく不便にならないように先生方の中で議論しているところです。

—やはりサークル活動について非常に気になります。年次ごとにキャンパスが変わるとなればサークルも当然キャンパスごとに活動していくことになると思います。1年ごとにサークルが変わったりするということも可能性としては考えられますし、4年間を通して一貫して同じサークルで活動するということが難しくなるのではないかと思います。サークル側はどういった対応をすれば良いのでしょうか。

新歓は森之宮ですることになると思います(2025年～)。また、これからサークルをどのように融合させていくかについては、関係者の中で議論の途上にあります。体育会を例に挙げますと、連盟にどのような形で参加するかという問題があります。また、活動拠点をどこにするのかといった問題もあります。現在、どのような形で融合するかいくつかパターンを示しながら、学生さん自身で考えていただいている状況です。そういった中でそれぞれのクラブ・サークルにとっての良い形が生まれてくるのだらうと思います。活動に関しては、森之宮・杉本・中百舌鳥と1時間もかかりませんが、ある程度時間のロスは発生してしまいますが、そこはそれぞれのクラブ・サークルで良い形を検討いただけたらと思います。大学としてできる限りサポートいたします。

—羽曳野キャンパスが潰される予定だと思いますが、なぜ羽曳野キャンパスが潰されるのでしょうか。

現在、羽曳野キャンパスは府大の看護・リハビリの専用キャンパスとなっておりますが、看護は阿倍野キャンパスに集約しようということになっております。そうすると、リハビリだけ羽曳野キャンパスに残すのかという問題が生じます。少人数キャンパスは、大学運営の面でも非効率ですし、学生向けサービスも荒くなってしまうため、リハビリは森之宮キャンパスに移します。

—羽曳野キャンパス跡地は、今後どのように利用されるかなど、決まっているのでしょうか。

未定ですが、出資団体の大阪府へ返還すると思います。



緑豊かなキャンパス=2020年7月3日片山翔太撮影

—両校の広大なキャンパスは、大阪における生物多様性を守る大切な緑地ですが、維持する方針ですか。

中百舌鳥キャンパスには豊かな自然があります。それらは当然変わらず維持していく予定です。しかし、建築に伴う木々の伐採などはもちろんあります。



——木々の伐採も含めて、維持されるのかという心配があります。杉本キャンパスの8号館前の木々も伐採され、残念だと思いましたので。

たしかに、伐採されましたね。あそこには、科学棟が建つ予定です。しかし、なるべく別の場所で確保するなど、できるだけ緑は維持していきたいです。木々があると心も落ち着きますし、重要だと認識しています。

——森之宮新キャンパスには、学情にあたる施設はあるのでしょうか。

もちろん、図書館はあります。しかし、学情には図書館の他様々な機能があります。それらすべてを持っていくことはありません。

——学部によってキャンパスが違います。例えば、文学部は現在杉本キャンパスにありますが、将来的に森之宮キャンパスに移設されます。学情にある文学部関連の蔵書が森之宮へ移されるのでしょうか。

現在、図書館委員会のほうで議論している最中でございます。森之宮キャンパスは2025年オープンなので、まだ時間的猶予はあると思います。しかし、森之宮キャンパスの図書館はそれほど広いというわけではないので、必要なものを移すという形になると思います。

——OCU UNIPAなどの学内システムは新大学のものに置換されるのでしょうか。それとも新大学のシステムと府立大、市立大のシステムが併存することになるのでしょうか。

システムが多すぎて、一概には申せませんが、最適なシステムになるよう設計をしております。

——学生証は、新規発行されるのでしょうか。

現市大生、府大生は卒業するまでは、所属は市大、府大所属となるため、学生証は現在使用しているものそのままとなります。

——院試の出題科目、評価などは変わるのでしょうか。

詳細は7月にWEBに掲載される予定であります。また、現在公表されているものは予定でありますので、今後変更される可能性もございます。

——新大学の開学に伴う府大生と市大生の交流行事などは現時点で予定されているのでしょうか。

以前からそういった活動はございましたので、今後もそういった活動を引き続き行っていこうと考えております。また、現在学生たちが取り組んでおります案と致しましては、「万博と一緒に参加する」といったものがございます。

文責 片山翔太 大川矢真人(Hijicho)

column 統合後、各学部はどうなる？

大阪公立大学(仮称)

大阪市立大学

商学部
経済学部
法学部
文学部
理学部
工学部
医学部
生活科学部

現代システム科学域(新設)

文学部
法学部
経済学部
商学部
理学部
工学部
農学部(独立)
獣医学部(独立)
医学部
看護学部(独立)
生活科学部

大阪府、大阪市、公立大学法人大阪「新大学基本構想(7月改訂版)」

https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/35704/00346634/2_kou_sou_7gatsukaitei.pdf 29頁を参考に作成

大阪府立大学

現代システム科学域
工学域
生命環境科学域
地域保健学域

※合計1学域11学部となる予定です！
※大学院に関しては「新大学基本構想」をご確認ください
※今後変更となる可能性があります

読者の皆さん、大学統合について理解が深まりましたか。質問を投稿していただいた皆さんもありがとうございました。市大がなくなることに抵抗を感じる方も少なくないと思いますが、私たちは「卒業するまで市大生」です。市大生としての誇りを胸に、これから統合していくことで生じる不和を克服し、大阪公立大学(仮称)を盛り上げていきましょう。

※新大学の組織は設置認可申請中のため予定であり、今後変更の可能性がります。

五代友厚をたずねて 第1回

大阪市立大学の創設者、五代友厚。皆さんはどんな人物か知っているだろうか。実は今年、大河ドラマに登場したことで五代友厚が再び注目されている。せっかく市大に通っているのだから、知らないなんてもったいない！連載「五代友厚をたずねて」では、五代友厚の功績を現役市大生の目線から辿っていく。第1回となる今回は、大阪企業家ミュージアムを見学し、五代友厚とはどのような人物なのか調査した。

長崎で学んだ青年時代

五代友厚は、天保6年(1836)2月12日に薩摩藩の儒者五代直左衛門秀堯の次男として生まれた。幼名は徳助、またの名を才助という。「才助」は、藩主が五代の才能を称えて名付けたと伝えられている。

安政元年(1854)、五代は19歳で薩摩藩に仕えることとなり、郡方書役に任じられた。安政4年には、幕府が設立した長崎海軍伝習所に遊学する。そこでは、勝海舟や榎本武揚など、のちの明治期に活躍する人々も学んでいた。外国の文明や知識に触れた五代は、開国に目を向けるようになっていった。

新政府役人から実業家の道へ

慶応3年(1867)に新政府が設立されると、五代は外交的手腕を買われて、参与職外国事務掛として登用される。慶応4年には、外国貿易関係の事務を管轄する参与職外国事務局判事に任命され、大阪在勤となる。これを機に、五代は大阪と関わるようになっていった。

明治2年(1869)、五代は会計官権判事として横浜への転勤を命じられるが、2ヵ月余でその地位を去る。官を辞した五代は大阪に戻り、実業家の道へ進むことを決める。この頃、五代は大久保利通に対して「政府には人材がそろっているが、民間にはいない。自分は大阪に行って一般の商工業の発展に努力する。」と述べたという。

実業家としての五代

実業家となった五代は、まず貨幣から地金を取り出して造幣局に納める「金銀分析所」を設立した。また、鉱山経営の本拠地「弘成館」を、製藍会社「朝陽館」を設立する。近代化を進めようと、自ら多様な事業を展開したのである。

さらに、財界指導者として新たな制度や団体も作りあげた。株式会社組織の「堂島米会所」や「大阪株式取引所」などである。その一方で、維新时期に乱れた商慣習を整えるために、「大阪商法会議所」も創設した。大阪商法会議所は、大阪商工会議所として現在も大阪の経済を支えている。実業教育の面では、明治13年に大阪商業講習所を創設。私たちが通う大阪市立大学の源流である。

大阪の恩人

明治18年(1885)、五代友厚は49歳の若さでこの世を去った。蓄財はなく、100万円の借財を残していたという。事業で得た利益は、財界活動を通じて社会に還元していたのである。五代の興した事業のうち、現在まで残っているものは数少ない。しかし、幕末から明治の混乱期に人々を導き、新たな仕組みを提示した五代は、間違いなく「大阪の恩人」である。現在私たちが暮らす大阪こそが、五代友厚が残した最大の功績と言えるだろう。

大阪企業家ミュージアムについて

大阪企業家ミュージアムは、地下鉄堺筋線・堺筋本町駅より徒歩5分の場所にある。受付前には五代友厚を特集したコーナーがあった。

主展示エリアでは、大阪で活躍した105人の企業家を、明治以降3つの時代ブロックに分けて紹介している。五代が築いた大阪の経済が、その後どのように現代まで続いてきたかを知ることができる。

学生証の提示で、大学生は100円で見学することができる。興味のある方はぜひ足を運んでみてほしい。

参考文献

宮本又郎(大阪企業家ミュージアム館長)『商都大阪をつくった男、五代友厚』(2015・NHK出版)



(上) 主展示エリアの様子、一番右の人物が五代友厚=6月9日、赤松みなみ撮影

(右) 大阪企業家ミュージアムの外観=6月9日、赤松みなみ撮影



文責 赤松みなみ(Hijicho)

オンライン授業、どう思う？

オンライン授業が導入されてから約1年半。みなさんはどのような感想を持っているだろうか。友達との交流が減って寂しい？ 議論ができなくて不便？ それとも自分のペースで進められて効率的？ この記事では、学生と先生それぞれ3名に話を聞き、オンライン授業のメリット・デメリットについて考える。

工学部機械工学科2回生



取材日：6月15日（文面で回答）

——現在どのくらい大学に行っていますか。また、対面とオンライン授業の比率を教えてください。

2週間に1度通学しています。比率は対面1コマ(但し2週間に1度のみ):遠隔16コマです。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

やや不規則になってきています。全て対面授業だった時に比べて起床・就寝時間が2~3時間遅くなりました。

——オンライン授業の形態(基本・発展・双方向)ではどれが好きですか。

資料を見ながら自分のペースで進められる基本形態が一番好きです。

——オンライン授業をどのように受けていますか。(計画性について)

「授業を1~2日以内に受講している。」です。

——オンライン授業はどのように受けていますか。(態度について)

「資料に軽く目を通し、課題も大体こなしている。」です。

——オンライン授業になって困ったことを教えてください。

自学自習も含めて、自分1人で取り組まなければならない課題が増え、対面授業と比べて自由時間はむしろ減ったと感じています。

また外出する機会も大幅に減ったことや、友達と話せないこともあって精神的にしんどいです。

——オンライン授業になって良かったことを教えてください。

大学まで通学しなくてもよくなったこと、受け方にある程度の自由があることでしょうか。

——対面授業とオンライン授業、どちらの方が大変ですか。

遠隔の方が大変だと思います。対面だと体力的に厳しいですが、遠隔だと精神的に厳しい上に、基本的にずっと同じ場所で受けないといけないのでなかなか気分転換できず、気が休まりません。

——対面授業とオンライン授業、どちらの授業形態が好きですか。

対面が好きですね。

人と直接顔を合わせられる機会は大幅に増えるので、なんだかんだで楽しいです。ただ、授業の大半が遠隔で試験だけ対面というのだけは正直勘弁してほしいのですが……。

——先生に伝えたいことがあれば、どうぞ!

(先生方に言うことでは無いかもしれませんが)遠隔か、それとも対面かといった授業方針をせめて1週間前には発表して頂けると助かります。

直前の発表だと対応できない学生もいるかと思うので……。

文責 赤松みなみ(Hijicho)

法学部法学科2回生



取材日：5月26日

——現在どのくらい大学に行っていますか。また、対面とオンライン授業の比率を教えてください。

ほぼ行っていません。全ての授業がオンラインに切り替わりました。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

睡眠時間は変わっていませんが、寝る時間と起きる時間が1時間ずつ遅くなりました。最近、午前0時~1時に寝て、午前8時くらいに起きています。対面授業があったときは、通学に1時間ほどかかるので、午前7時には起きていました。

——オンライン授業の形態(基本・発展・双方向)ではどれが好きですか。

一番好きなのは発展です。好きな時間に受講できて、分からない部分は繰り返し再生することができるからです。自分のペースで受講できるので、理解する時間が十分に確保できます。ただし、法律の授業は、動画なしの基本でもいいかなと思っています(笑)。レジュメを読んで判例を理解するものが多いので……。

双方向は、Zoom中に質問するのが難しいので、あまり好きではないですね。



商学部公共経営学科3回生

取材日：5月21日

——オンライン授業をどのように受けていますか。(計画性について)

「授業を1～2日以内に受講している。」です。法学部は課題が少ないので、「課題の締め切り直前になって焦る」ということは無いですね。

法学部は1回の試験で成績が決まることが多いのですが、去年はやる気が出なくて、試験直前に焦りました。その反省を活かして、今年度は計画的にやるようにしています(笑)。

——オンライン授業はどのように受けていますか。(態度について)

「資料に軽く目を通し、課題も大体こなしている。」ですね。

——オンライン授業になって困ったことを教えてください。
まず思ったのは、「自己管理能力が問われる。」ということです。自己管理ができないとすぐに授業が溜まり、溜まった授業を見てやる気が失せる……という負のループを去年経験しました(笑)。

質問がしばらくにも困っています。帰り際に聞けるような些細なことでも、オンライン授業では、メールを書く必要があります。「対面なら2,3分で済むのに!」と思ってしまいますね。

——オンライン授業になって良かったことを教えてください。

良かったことは、自分のペースで受講できることです。分からない用語について、辞書や教科書を参照する時間があるのはいいですね。語学については、テストが簡単になったので助かりました(笑)。

——対面授業とオンライン授業、どちらの方が大変ですか。オンライン授業の方が大変です。メリハリがつかず、モチベーションも持たないからです。家でずっとパソコンを見ていて、環境の変化が少ないので「今から勉強!」という気持ちにはなりにくいです。そこが精神的にしんどいですね。

——対面授業が再開したら、やりたいことはありますか。知り合いを作りたいです! せっかく大学で色々な人に会えるので、活用したいですね。

——先生に伝えたいことがあれば、どうぞ!
システム面では、動画のプラットフォームを統一してほしいです。

あとは、授業ごとに適した形態を選んでほしいです。例えば「この授業は、発展よりも双方向の方が勉強しやすいの。」と思うことがあります。一番学習効果が高くなる方法を考えてほしいです。

1年間オンライン授業を経験して、オンラインでしかできないことや意外な良さに気づきました。「オンラインで何ができるのだろう?」と広げていくと、新たなチャンスが見つかると思います。

文責 赤松みなみ (Hijicho)



対面授業になったら1限に出席できる自信がありません。(翔)

——現在どのくらい大学に行っていますか。また対面とオンライン授業の比率を教えてください。

私はほとんど通っていないですね。今週も全然行かなかったです。今は全ての授業がオンラインになっています。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

ありました。対面授業のときと比べて、就寝・起床が遅くなり、睡眠時間が増えました。眠りすぎて頭が痛くなることもあります……。最近は昼夜逆転していて、午前3～4時に寝て午前10時頃に起きることが多いです。家にいると疲れないので、眠れなくなるのだと思います。

——オンライン授業の形態(基本・発展・双方向)ではどれが好きですか。

私は発展が好きです。倍速でも見られるし、巻き戻しもできるからです。

——オンライン授業をどのように受けていますか。(計画性について)

「課題の締め切り直前になって焦る」ですね(笑)。締め切りまで時間があると思うと、ついつい先延ばしにしています。そういう面でいうと、双方向の方がキッチリ時間を決められているので、良いのかもかもしれません。

——オンライン授業はどのようにしていますか。(態度について)

「資料は飛ばし読みし、課題は多少こなしている」ですね。今Hijichoさんの投票画面を見たら、私と同じものを選んでいる人が多くて驚きました(笑)。

——オンライン授業になって困ったことを教えてください。

先延ばしにしまうこと・昼夜逆転してしまうこと・友達に会えないことですかね。大学近くの飲食店になかなか行けないのも困っています。後輩に「このお店美味しいよ!」と勧めたいけれど今は難しいですね。

——オンライン授業になって良かったことを教えてください。

聞き逃した部分を巻き戻ることができるので、教授に質問しに行かなくても確認できるのが良かったことですね。その点ではオンライン授業の方が勉強できるなど感じます。あとは交通費と通学時間がなくなったのも良かったことです。

——対面授業とオンライン授業、どちらの方が大変ですか。
私はオンライン授業の方が大変だと感じます。締め切りギリギリになったり期限を見誤ったりして提出を忘れることがあるので、単位が取りにくくなりました。対面授業のときは、コミュニケーションカードやレポートを提出すれば大丈夫だったので……。あと対面は決められた時間に参加しますが、オンラインは先延ばしにするので苦手です(笑)。

——対面授業とオンライン授業、どちらの形態が好きですか。

対面が好きかもしれないです。交通費がかかってしまったり、倍速で聞けなかったりはしますが、「大学生」を味わうために対面は大事だと思っています。友達と「この授業同じだから一緒に行こう」と話す時間や、有名な教授が目の前で講義してくれる環境を考えたとき、そう感じますね。

——先生に伝えたいことがあれば、どうぞ！
倍速で再生できるところに授業動画をアップしてほしいです。使い慣れているYoutubeだと嬉しいです。

文責 赤松みなみ(Hijicho)

先生はオンライン授業について
どう考えているんだろう……？



本多哲夫先生(商学部)

取材日：5月21日



本多先生 プロフィール

大阪市立大学商学部教授。博士(商学)。専門は地域経営論、中小企業論。

本多哲夫先生=本人提供

——先生が担当されている授業は、現在どのような形態で行っていますか。

まず、学部と大学院のゼミはすべてZoomを使った双方向型で行っています。講義については、公共経営序論(コーディネーター)と中小企業論、大学院の地域経営論研究を担当しているのですが、いずれも発展型で行っています。一昨年までは、地域産業論と中小企業経営論という講義も担当していて、中小企業の方や自治体の職員の方をゲストスピーカーとして招いていました。しかし現在は大学に来ていただくことが難しいので、開講していません。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

オンライン授業だからという影響はあまりないですね。夜に外出したり会食したりする機会が減ったので、睡眠時間が長くなって健康的になったかもしれません(笑)。

——オンライン授業になって困ったことはありますか。
まずシステムに慣れることですよね。去年の4月時点ではZoomを使ったこともなく「ゼミでZoomは使えるのか?」「講義の動画はどうやって作るのか?」という感じてした。

そしてゼミですね。本多ゼミの場合は、中小企業にフィールドワークに行くことも多いですね。あとは区役所主催の子供向けイベントのサポート活動もやっていました。そういった活動が一切できなくなって、現場に行けないというのはゼミの魅力が落ちてしまうなと思っています。ゼミで雑談ができないのも寂しいですね。

これは嬉しい反面忙しいことなのですが、教室の制約がなくなったことで、履修者をいくらでもとれるようになりました。中小企業論の履修者は383名いるのですが、その全員から毎週レポートが来るので、読むのにかなり時間がかかりますね。フィードバックがあるのは嬉しいですが、やはり大変です(笑)。

本多先生が手がける朗読劇、楽しみにしています!(赤)

——では、オンライン授業になって良かったことはありますか。

良かったことも沢山あります！僕は大教室の講義をオンラインでやるのは結構いいと思っています。これまでの大教室の授業は、学生の立場からすると、教室に詰め込まれて、周囲がガヤガヤしている中で教員の声も聞き取りにくい……という状況だったと思うんです。オンライン授業だとそれがすべて解消されますよね。あとはエアコンの問題ですね。大教室だと何度にも設定しても合わない人がいて大変でした(笑)。家なら快適に勉強できますよね。

僕の授業では毎回演劇の映像を流しているのですが、対面授業では毎回はできなかつたんですよ。でもオンライン授業になって、飽きずに楽しんでもらいたいなど毎回流すようにしたら、すごく学習効果もありますし、僕としても頑張って作った演劇を毎回見てもらえて良かったなと思いました。

——講義の動画は本多先生が編集されているのですか。

はい。自分でやっています。

——それはコロナ禍以前はやっていなかったことを、オンライン授業を機に始めたということですか。

そうですね。中小企業論の講義では毎回カエルが登場するんですが、あれは全部自分で編集しています(笑)。

——対面と遠隔どちらの方が準備が大変ですか。遠隔では編集に時間がかかりますね。講義動画の場合は手元にも残りますし、何回も見てもらいたい。楽しんでもらおうと編集するぶん、対面より準備に時間がかかってしまいますね。

でもよく考えると対面は対面で大変ですね。レジュメを沢山印刷しないといけないとか。学生の皆さんは当たり前になっているかもしれませんが、何百部のレジュメを印刷して運ぶの結構大変なんです(笑)。紙ベースでレポートを回収してチェックするのも大変でしたね。

対面もオンラインも良い面・悪い面がありますね。

——オンライン授業で工夫していることはありますか。

動画がある方が楽しいと思うので、動画を全面に出すようにしています。今年からは、学生から来た感想や質問に授業内で回答するようにしています。

——対面授業で最前列に座っているような学生は記憶に残ると思うのですが、オンライン授業でも記憶に残る学生はいるのでしょうか。

はい、いますよ。レポートを見て「しっかり書いてるな」「独自の視点でいいな」という学生は、印象に残りますね。

——仮にコロナ禍が落ち着いて授業形式を選択できるとしたら、対面と遠隔どちらを選びますか。

これはゼミと講義で変わりますね。大学院のゼミは社会人の方もいるので遠隔になると思いますが、学部のゼミは対面がいいです。Zoomだけだと人間的な交流がなくなってしまうので……。

一方僕が1人で担当している講義は、コロナが終わったとしても遠隔でやっていきたいですね。先ほどもお話しましたが、静かな環境で聞けるとか動画を停止したり戻したりできるといったメリットを生かしたいです。ただ、ゲストスピーカーを呼ぶ講義は対面でやりたいですね。

——オンライン授業を受ける学生に要望があればどうぞ！

要望は特にないのですが、あえて言うなら授業動画の演劇部分は倍速で見ないでほしいです。作品として演劇を楽しんでほしいので、ぜひそのまま堪能してください。僕の講義動画は、理解してくれば倍速で見てもらっていいです(笑)。

——最後に学生にメッセージをお願いします。

オンライン授業を受けている学生さんは、レポート課題に追われて大変だと思います。ただ、とても身になっていると思うので頑張ってくださいね。オンライン授業は、自分にとって快適な場所で受講できるので、本来の意味での勉強ができると思うんです。動画は何回でも再生できますし、メールで質問することもできます。課題が大変という気持ちが先行してしまうかもしれませんが、将来振り返ったときに「勉強になったなあ。」と思えることがあるはずですよ。せっかくなので、この環境を利用して集中して勉強してほしいですね。この時期に頑張ったことはひとつの苦勞として、必ず身になると思います！

本多先生が脚本・演出を手がける
オムニバス朗読劇！

劇団カオス×市大商学部 エデュテイメンツ
5周年記念公演「中小企業SD白書」

会場：大阪市立大学田中記念館ホール
日程：8月21日(土)・22日(日)
時間：13:30開場、14:00開演



中川満先生(経済学部)

中川先生 プロフィール

大阪市立大学経済学部
教授。主な研究分野は
統計解析、経済統計。



中川満先生=本人提供

——現在受け持っている授業と、その形態を教えてください。

前期は学部と大学院の講義で1コマずつ、あと、学科教員全員で担当しているオムニバス形式の講義があります。すべて遠隔授業の発展形式で行っています。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

講義はオンラインですが、本学理系学部の研究室での研究活動は継続して行われています。4年生と大学院生はほぼ毎日研究室で実験をしています。そのため私たち教員も以前とほとんど変わりなく大学にきています。ですから、生活リズムに特に変化はないですね。もちろん、研究室では新型コロナの感染防止対策を徹底して、研究活動を行っています。

——オンライン授業になって困ったこと、逆に良かったことはありますか。

オンライン授業が始まった当初はとにかく準備が大変でした。前もってセリフなどを吹き込んでおく講義動画を作る経験がなかったので、毎週のように締め切りに追われていました。その分、今年度は1年分の経験が積まれた状態だった上、昨年度分の資料をある程度利用することもできたので、かなり楽になりました。他には、私の講義はライブ、つまり生配信ではないので、学生さんの生の声が聞けないということに非常に戸惑いがありました。講義以外で良かった点は、会議を設定しやすくなったことです。大学の教員は会議が多いのですが、これまでは教員同士のスケジュールの都合もあり組みづらかったのがオンラインになったことで場所や時間の制約がなくなり、自由に組むことができるようになりました。

——対面授業と遠隔授業では、どちらの方が準備が大変ですか。

先ほどお話しした通り、最初は遠隔授業の方が準備は大変でしたが、資料を一度作ってしまえばその後は同じ内容であれば使いまわせます。また遠隔授業が始まって最初の1年間で動画編集のノウハウを積んだ今では、遠隔授業の準備も苦ではなくなりました。

——ひとつの講義動画を作るのにどれぐらいの時間をかけていますか。

私はパワーポイントを使って講義動画を作っているのですが、画像や文字を入れる等のスライドを作る作業は通常の講義で用いる資料作りと同様なので、既に素材がありました。ただそれを遠隔講義用に編集するのに最初は時間がかかりました。1回の講義資料編集で丸一日はかけていました。動画に声を吹き込む作業は基本的に一発撮りだったので、それについては講義動画の長さ程度の時間で作成しています。

——オンライン授業で工夫していることはありますか。

私は講義の際、余談やアドリブ、笑いを大事にしています。学生さんから話を聞くと、現在遠隔で行われている講義は余談のようなものが一切なく、講義の内容だけを解説するものが多いそうです。また大学からは、講義動画のファイル容量をできるだけ軽くするよう要請されているのであまり余談は入れにくいのですが、やはりそれだと講義が味気なく感じてしまう部分があったので……。実際そういった小話を少しでも入れることで、学生さんたちから「腹を抱えて笑った」「その後の講義も集中して受けられた」といった感想もありました。ただ難しいのは、こういった小話はフレッシュさが大事なため過去の資料を参考にできないところですね(笑)。また遠隔授業の特性上、学生さんの表情が見えず、学生さんが自分の講義を理解できているのかがとても分かりづらいため、とにかく分かりやすい講義を作ることを心がけています。講義のアンケートも頻繁にとって、講義の内容を理解しているかどうか確認しています。

——仮にコロナ禍が落ち着いて授業形式を選択できるとしたら、対面と遠隔どちらを選びますか。

どちらかと問われれば、もちろん対面です。ただ遠隔授業を完全にやめるわけではなく、例えば学生さんの復習用や、事情があって出席できなかった場合のために講義映像をアップロードしておくなど、両者をうまく組み合わせると活用できればと考えています。

——最後に学生にメッセージをお願いします。

もともと自主的に行動することを求められる大学生ですが、このコロナ禍によってさらに自分を律しなければならぬ状況になっていて、とても大変だと思います。ですが学校に行かなくても良い分自由に使える時間は増えているので、映画や本、インターネットなど、媒体はなんでもよいので自分の興味を広げ、またいろんな分野に興味をもつためのきっかけを自分で見つけてほしいです。それがきっと大学の学びにも返ってくると思います。

——ありがとうございました。

立花太郎先生(工学研究科)



立花先生 プロフィール

大阪市立大学工学研究科教授。博士(医学)。
主な研究分野は抗体医薬品や分子細胞生物学。

立花太郎先生=本人提供

——先生が担当されている授業は、現在どのような形態で行っていますか。

ゼミはオンラインの双方向形式、講義は発展形式で行っています。私に限らず経済学部の先生はこのような形式での授業が多いのではないのでしょうか。去年は学部の講義を資料を配布するだけの通常形式で行っていましたが、学生の方からの苦情の声が多かったために発展形式となりました。

——オンライン授業になって生活リズムに変化はありましたか。

出勤をする必要がないので、やはり変化はありました。また1限の講義のために朝4時や5時に起きることはなくなりましたね。

——オンライン授業になって困ったことはありますか。

オンライン授業が始まってすぐの頃はPCに備え付けられているマイクを使用して講義を録音していたので音質に問題がありました。ただ今は機材を買ったのでかなり満足できる状態です。他には、何をスライドに載せればいいのか、テストや課題の作成も難しかったですね。一番困ったことは、聴衆となる学生がいないうちで講義を録画しなければいけなかったことで、今でも苦痛に感じています。毎回非常に緊張してしまって、いつも以上に言い間違いが多くなったり早口になってしまいます。解決方法をインターネットで調べた結果、今はメトロノームの音を聴きながらそれに合わせて話すことで、なんとか克服できています。

——では、オンライン授業になって良かったことはありますか。

これは対面授業ではできないな、と思うようなこともオンライン授業ならできるようになったことですね。最近の例でいうと、統計の授業で講義動画と一緒にExcelファイルを配布することで、学生各々がモチベーションが高まったタイミングで動画を視聴してExcelを操作することができます。対面授業では全ての学生が講義にPCを持ってきていけるには限らないので、これは以前では考えられないことでした。そういった意味では講義の自由度が広がったと感じています。

——対面と遠隔どちらの方が準備が大変ですか。もちろん遠隔の方が大変ですね。対面授業の時は喋りながら簡単に板書を書くだけだったので、準備はどんなことを喋るか決めるだけでした。それが遠隔では板書を最初にしておく必要があって、そのスライドの説明も考えておかなければいけないため、準備はとて大変になったと思います。

——オンライン授業で工夫していることはありますか。まず、オンライン授業ならではの自由度を生かすようにしています。またこれはゼミで行っていることですが、去年1年間の経験を踏まえて、研究のためにやるべきことだけを追求していくとゼミ生同士の交流がなくなってしまうことが分かりました。そこで、あえて必要でないことを話すことによって相互の繋がりを育むことができるのではないかと考えてから、講義の後に10分ほど雑談の時間を作っています。

——仮にコロナ禍が落ち着いて授業形式を選択できるとしたら、対面と遠隔どちらを選びますか。

対面を選択すると思いますが、講義動画や統計で用いるExcelファイルなどのコンテンツをオンラインで提供したうえで質問コーナーのような立ち位置になるんじゃないでしょうか。それ以前のように、黒板に板書をして喋って、という形式の授業はやらなくなると自分の中では思っています。学生の理解するスピードも一人一人違うので、その都度動画を停止して考えたり、手を動かしながら動画を視聴したりということができて点で現在の形式の方が学習の効率が良いですね。オンライン授業の時にできていたことのレベルを、対面になったからといって落とすわけにはいかないと思います。

——最後に学生にメッセージをお願いします。

そうですね、我々は今、コロナウイルスのおかげで宇宙時代の先駆けに立っていると思うんです。例えばこのインタビューはzoomで行われていますが、もし私が遠くの星にいたとしても同じ形態でお互い会話することができるわけですね。つまり私たちは今、宇宙時代と同じコミュニケーション方法を始めていると言えるんです。そうするとオンライン授業もまた、宇宙時代の教育ツールということができます。そういったつもりで私たち教員も様々な準備をして、従来とは違う次元での教育ができるようにと考えているので、それを受講する学生の皆さんも単位のためだけではなく、自分たちは宇宙時代の教育を受けているのだと自覚を持って講義に取り組んでもらえると、お互いにポジティブな気持ちでオンライン授業に立ち向かえるのではないかと思います。

——ありがとうございました。

文責 大川隆明(Hijicho)

また今回、より広く学生の意見を取り入れたいという思いから、Hijichoの公式twitterにてオンライン授業に関するいくつかのアンケートを実施しました。結果は以下のとおりです。

※twitterでの投票のため、必ずしもすべて大学生による投票の結果であることは保証できません。

問1 オンライン授業が始まってから、睡眠時間に変化はありましたか？

増えた	54.7%
減った	29.1%
変わらない	16.1%

投票数322

問3 オンライン授業を、どのように受講していますか？②

資料に軽く目を通し、課題も大体こなしている。	47.8%
資料によく目を通し、課題もこなしている。	18.3%
資料は飛ばし読みし、課題は多少こなしている。	18.3%
資料はほぼ読まず、課題もあまりやっていない。	15.6%

投票数295

問5 最も好きな遠隔授業の形態はどれですか？

通常	56.8%
発展	28.4%
双方向	14.8%

投票数155

問2 オンライン授業を、どのように受講していますか？①

課題の締め切り直前になって焦る。	50.3%
授業を1~2日以内に受講している。	19.9%
毎日の授業を欠かさず受講している。	18%
授業を3~4日以内に受講している。	11.8%

投票数285

問4 対面と遠隔、どちらの授業形態の方が好きですか？

遠隔	53.4%
対面	46.6%

投票数457

ご協力いただき
ありがとうございました！



大喜利コーナー | H C I D A I グランプリ

お題「学情の屋上に人が殺到。いったい何があった？」

金賞

哲男のシキチャオ番外編学情ノボッチャオが屋上で開催された (じげぞう102歳)

銀賞

ビスコの配布 (にき)

銅賞

教科書販売の整理券配布 (プロ・ロースクーラー)

最後まで読んでいただきありがとうございます!次号もお楽しみに!
新聞に対するご意見・ご感想あればこちらからお願いします→

